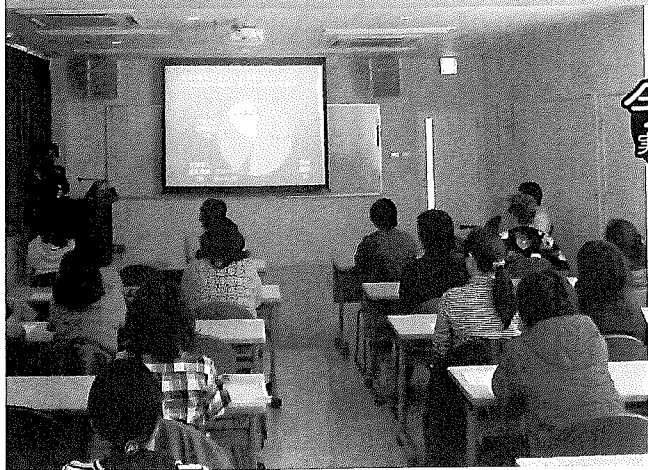




「おりひめの会」には診療圏外の遠方から足を運ぶ人も

【特集】
今すぐ
実践できる

集患から職員満足度向上まで

診療所アイデア図鑑

45

アイデア
No. 07

更年期の女性を対象に 情報交換の場を設定

医療法人社団清心会 春日クリニック (熊本県熊本市)

春日クリニックでは、1999年から更年期の女性の情報交換の場として「おりひめの会」を開催している。定期的

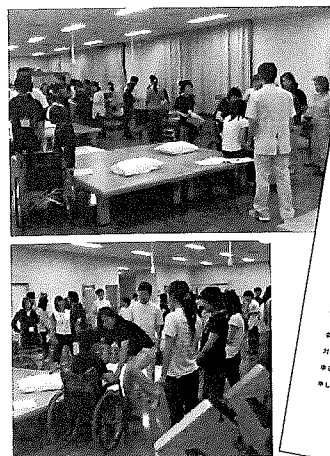
地域の多職種が気軽に集まり 話をする座談会を開催

医療法人常盤会 緑の屋根診療所 (栃木県佐野市)

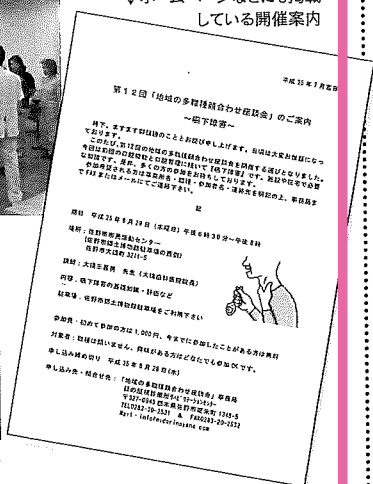
緑の屋根診療所では、4年前から3カ月に1回のペースで「地域の多職種顔合わせ座談会」を開催している。対象は地域で働く多職種の人で、急性期病院のリハビリスタッフ、特養や老健の介護職、ケアマネジャー、訪問看護師などが参加。同会の世話人を務める理学療法士の南雲光則氏は開催の理由を、「気軽に集まれて、お茶でも飲みながらリラックスした雰囲気のなかで話せる場をつくりたい。それぞれが持っている情報を提供し合ったり、課題を共有化することで、良質な医療・介護の提供につなげたいと考えました」と語る。

参加者からは、日ごろの悩みなどを気軽に話そうとすることができたおかげで、連携が図りやすくなったという声が聞かれる。「顔の見える関係」から一歩進んだ「気軽に話せる関係」が、連携の質を高めていると言えそうだ。

↓ ホームページなどにも掲載
している開催案内



「地域の多職種顔合わせ座談会」には、多いときで50人ほどが参加する



アイデア
No. 09

催されるこの勉強会は今年の11月で65回を数える。

「当院の患者さんの40%近くは40~60代の女性で、診療時に更年期に伴う悩みを相談される方が多くいます」と清田真由美院長は説明する。

診療時間内だけでは悩みに応えることはできない、と強く感じた清田院長は、更年期に関するさまざまな情報の提供と、参加者同士の意見交換をする場として同会を発足。毎回20人ほどが参加しており、参加者からは「更年期についての知識を得たり、情報交換をする場がなかったのでとても助かっています」という声が挙がるなど好評だ。同会の評判は口コミでも広がり、遠方から駆けつけ、そのまま受診につながるケースも多いという。

当初は更年期女性限定だった同会も、今では夫婦・親子での参加も増加。更年期障害だけでなく、更年期女性が直面する介護や看取りについても話題が広がっており、同会は参加者の悩みや不安をやわらげる大きな役割を担っている。



ギャラリーでは原則、2週間展示が可能

アイデア
No. 08

地域住民に親しまれる 自作品展示のためのギャラリー

イオン厚木オアシス診療所 (神奈川県厚木市)

地域住民が制作した作品を展示する「ギャラリーオアシス」を開設しているイオン厚木オアシス診療所。鈴木美津子事務長は「院長は長らく地域医療に取り組んでおり、『地域の皆さんのために』という強い思いを持っていました。そこで開院にあたり、地域住民に気軽に利用してもらえる専用スペースを設けようと考えたのです」と説明する。ギャラリーは個人による展示のほか、地域の障害者のグループや大学のサークルなどの発表の場としても利用されている。

「ギャラリーの利用者だけでなく、作品を見に来たことがきっかけになって当院を知り、市の健診を申し込んでいただいたケースもあります。当院との相乗効果にも期待したいです」(鈴木事務長)

